

姫路赤十字病院だより



contents

- 院長年頭のあいさつ
- 初診患者完全予約制開始（血液・腫瘍内科・歯科口腔外科）
- 選定療養費改定
- 地域医療支援病院について
- FAX 紹介手順
- 内視鏡室の紹介
- 赤十字国際活動
- 診療科の紹介（整形外科・産婦人科）
- 救護車輛の更新をしました
- 兵庫県南部ドクターヘリ運航開始
- 採用・退職
- 研修会の様子／研修会開催予定一覧

Vol. **3**
2014

☁ 2014年新春を迎えて ☁



新年明けましておめでとうございます。今年の干支は午年です。午は馬を連想させ、古来より馬は縁起がよい動物といわれており、中でも馬の字を反転させた「左馬（ひだりうま）」は招福のシンボルとされています。新しい動きが生まれ、不調であったものにも上昇の兆しが見える年であってほしいものです。

昨年、46床増床いたしました。地域周産期母子医療を充実するため、従来より稼働していますNICU（新生児集中治療室）に加えて、MFICU（母体胎児集中治療室）を新設し、昨年6月より順調に稼働しています。合併症を有する妊産婦や早産が予測される妊婦（ハイリスク妊産婦）に安心してお産をしていただける体制が整いました。最新医療を享受していただくためダ・ヴィンチによるロボット手術も前立腺癌で稼働するようになり、本年は準備を進めていました心臓血管外科による開心術が始動します。地域医療に貢献すべく基盤を整えていきますので、ご支援よろしく申し上げます。

自民、公明、民主3党合意のもと医療・介護について社会保障制度改革国民会議で議論され、昨年8月に結論が出されました。これを受けて国会では社会保障改革プログラム法案が審議入りしています。プログラム法案が可決されると、医療サービス等の提供体制では、病床の機能分化・連携及び在宅医療・在宅介護の推進、地域における医師、看護職員等の確保・勤務環境の改善等、医療職種の業務範囲及び業務の実施体制の見直し等が平成29年度までに順次講じられます。自民・公明党の安定多数により、審議はますます加速され、医療行政に大きな改革が行われます。平成26年度からは医療、介護の現場では医療行政の改革に適応すべく、早急な対応が迫られます。中でも医療のあり方は、病院完結型から、地域完結型へと方向転換しつつあります。姫路市医師会の方針もこの方向で検討されおり、私たちも方針に従い、医師会の先生方との連携を今以上に深化させて地域医療支援病院の役割を果たしますのご協力よろしくお願いたします。

（院長 佐藤 四三）

初診患者完全予約制開始

【血液・腫瘍内科】

血液・腫瘍内科は平成19年6月に血液一般、血液腫瘍を対象に設立されました。外来患者は一日平均約40人、入院患者は常時約40人と兵庫県下でトップクラスの規模を、長谷川 詠子、平松 靖史、多田 寛の3名で診療しています。

「検査、輸血、治療を急ぐ症例への速やかな対応」「入院が必要な症例の入院ベッドの確保」「予約患者への待ち時間の軽減」を目的とし初診患者に対し完全予約制を導入することになりました。

これからも地域医療機関と連携を深めながらより質の高い医療を提供したいと思っております。ご協力よろしくお願いたします。

(血液・腫瘍内科部長 平松 靖史)

【歯科口腔外科】

歯科口腔外科は地域医療機関と連携のもと、口腔外科医療に基軸を置いた医療の提供を目指し、日々努めています。おかげをもちまして、初診患者数は一日平均で約20名、年間5,000名を超えております。医療機関からのFAX初診予約も積極的に受けており、約7割の患者さんは紹介状を持参されますが、直接来院する患者さんが多いのも現状であります。この度、よりスムーズな診療を目指すことと、紹介率向上のため初診患者の完全予約制を導入することとなりました(外傷患者などの急性疾患は従来通り受け入れていきます)。今後、様々な問題が生じることが予測されますが、一つ一つ解決していきたいと存じます。みなさまのご協力をお願いできればと思います。

(歯科口腔外科部長 藤原 成祥)

選定療養費について

当院は、これまでの取組みが評価され、兵庫県より平成24年11月14日付けで、かかりつけ医を支援し、地域医療の連携を進めるための拠点的な病院として、「地域医療支援病院」に承認されています。

現在、わが国が推し進めている医療の機能分化を図るため、地域医療支援病院の役割並びにかかりつけ医をもつことを広報し、また啓蒙するなどの働きかけをおこなっていますが、紹介状を持参されない比較的軽症患者のウォークインが多く、高度な専門医療を必要とする患者に対し、安全で質の高い医療を持続的に提供することに支障を来しております。

やむを得ない措置ですが、平成26年1月6日より紹介状を持参しない患者に通常の診療費とは別に選定療養費(初診時3,150円、時間外5,250円)を請求いたしますので、ご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(医事課長 山名 伸之)

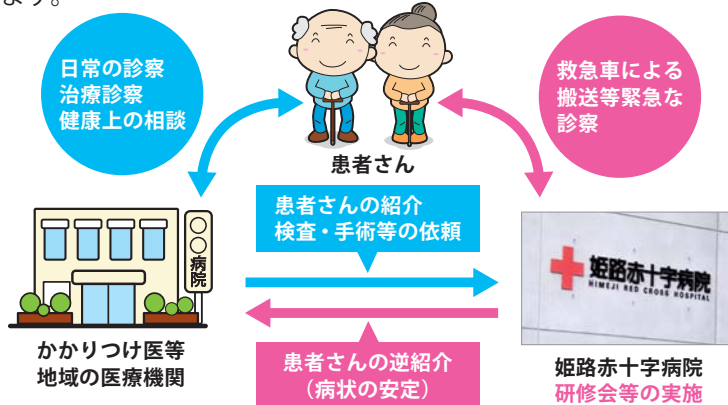
地域医療支援病院について

1. 趣旨

医療施設機能の体系化の一環として、患者に身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、第一線の地域医療を担うかかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有するものについて、都道府県知事が個別に承認しています。

2. 主な役割

- 紹介患者に対する医療の提供
(かかりつけ医等への患者の逆紹介も含む)
- 医療機器の共同利用の実施
- 救急医療の提供
- 地域の医療従事者に対する研修の実施



3. 承認要件

開設主体：原則として国、都道府県、市町村、特別医療法人、公的医療機関、医療法人等
紹介患者中心の医療を提供していること（2013年10月30日現在案）

1. 紹介率80%以上
 2. 紹介率が65%以上かつ、逆紹介率が40%以上
 3. 紹介率が50%を超え、かつ、逆紹介率が70%以上
- 救急医療を提供する能力を有すること
 - 建物、設備、機器等を地域の医師等が利用できる体制を確保していること
 - 地域医療従事者に対する教育を行っていること
 - 原則として200床以上の病床、及び地域医療支援病院としてふさわしい施設を有すること

*兵庫県ホームページより一部を抜粋しました。現在も厚生労働省では承認要件の見直し、随時検討されております。

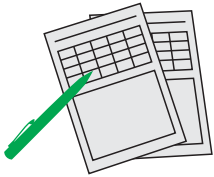
当院は、平成24年11月に地域医療支援病院の承認を受けました。今までは、大きな病院に行けば全ての病気やケガの治療ができる、いわゆる「病院完結型医療」が中心でしたが、現在の医療政策は「地域完結型医療」に転換されています。

姫路赤十字病院は、第一線の地域医療を担う「かかりつけ医」を様々な側面から支援し、地域全体の医療資質向上のため、切れ目のない医療を提供するため等、中心的な役割を担う基幹病院として、医療を提供するべく職員一丸となって取り組んでおります。引き続き地域の医療機関の先生方からのご紹介を賜り、二人三脚で患者さんが安心して受けられる医療体制づくりにご協力をお願いいたします。

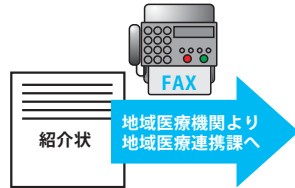
(地域医療連携課長 前田 智成)

患者さんの紹介手順について

1 当院専用の診療情報提供書をお書きください。

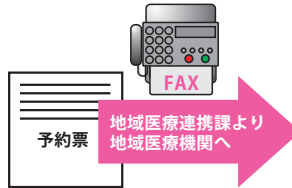


2 地域医療連携課にFAXしてください。



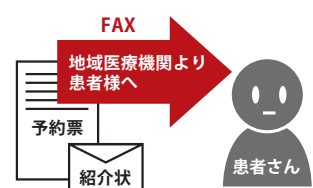
【FAX番号】079-299-5519

3 地域医療連携課よりFAX送信します。予約票をお受け取りください。



お時間がかかる場合があります

4 診療情報提供書および予約票を患者さんにお渡しください。



当院は診療情報提供書の原本が必要です

① 紹介状を書く

紹介元医療機関

② 紹介状をFAX送信する



地域医療連携課

姫路赤十字病院

④ 紹介状及び予約票を渡す

患者さん

③ 予約票を送信



初診受付
各科受付
診察

あらかじめ診察券、カルテ等を用意しております

- 診療科により、一部有料予約となります。(形成外科・産婦人科一部)
- 血液腫瘍内科・歯科口腔外科・放射線診断・IVR科・放射線治療科は完全予約制となっております。状況によりお受けできない時もありますが、ご了承ください。
- 患者さんの保険情報を一緒にFAX頂けると、事前に診療録(カルテ)が作成でき待ち時間を短縮することができます。
- 診療科、診察日、医師の指定がある場合は、FAXの際にご記入ください。医師指定のできない科がございますが、確認のうえお返事いたします。
- FAXは24時間受け付けております。紹介状が着信次第、紹介元の各医療機関へ予約票を送信いたします。尚、診療科によっては、医師との調整がつかず、当日の返信ができないこともあります。ご了承ください。(ただし、午前8時30分～午後5時00分までとし、午後5時以降着信分は翌日の返信となります。)
- 診察日前日の午後5時以降に届いたものについては、ご予約をお取りできません。
- 患者さんの診療情報提供書を郵送などでいただいても、あらかじめFAXによるご予約がなければ、一般の初診患者さんと同様にお待ちいただくことになります。
- 担当医の不在等によりご希望の予約がお取りできない場合がございますがご了承ください。
- お電話によるご予約及び、予約の可・不可の確認はご遠慮ください。
- 予約日の変更はお受けできない場合がございますので、あらかじめ患者さんの受診可能な日をお申し付けください。また、予約日の変更は必ず紹介元の医療機関よりご連絡をお願いします。
- 診療情報提供書はホームページよりダウンロードしていただくか、ご連絡いただければ郵送させていただきます。

受付業務時間 午前8時30分から午後5時

地域医療連携課 直通電話 079-299-5514

直通FAX 079-299-5519

ZOOM
UP

内視鏡室



【スタッフ紹介】

内視鏡室長	森下 博文
	高谷 昌宏
	吉永 文哉
	高木 慎二郎
	高田 斎文
	岸田 裕志
	山本 岳玄
	藤澤 論
看護師	浅井 洋子(放射線科と兼任)
	福田 ゆかり
	植田 弘美
	高嶋 恵
	上田 和代
	松本 いづみ
	柴田 郁美
看護助手	名村 あさみ

■ 内視鏡室について

内視鏡室は現在上記メンバーで月曜日から金曜日まで終日内視鏡検査と治療を行い、土曜・日曜・祝日は消化管出血などの緊急止血や閉塞性黄疸の内視鏡的ドレナージなどに極力対応をしています。

内視鏡診断学においては我が国が開発した、拡大内視鏡やNBIなどの特殊光内視鏡など新しい機種を積極的に取り入れ研鑽を重ねています。

また内視鏡治療手技は、上部及び下部消化管ポリペクトミー、内視鏡的粘膜切除を多数手がけています。内視鏡的粘膜下層剥離術を始めて10年以上が経過し、症例数も徐々に増加しています。食道静脈瘤は、食道静脈瘤硬化療法及び食道静脈瘤結紮術で、胃静脈瘤は放射線科依頼でバルーン下逆行性経静脈的塞栓術で対応しております。ERCPの件数も年々増加しており胆管結石の治療や悪性狭窄などに対してステント留置など多数例を行なっています。また、小腸に関してはカプセル内視鏡とシングルバルーン内視鏡を設置しています。今後増加が予想されるOGIB(原因不明の消化管出血)にも対応しています。

日頃より患者さんの安全に細心の注意をもって検査治療にあたっています。

内視鏡検査および治療が必要な患者さんがおられましたら、地域医療連携課にFAXでご紹介をお願い申し上げます。

(内視鏡室長 森下 博文)

■ 内視鏡室実績(平成24年)

上部消化管内視鏡	3476件	内視鏡治療手技	
下部消化管内視鏡	1608件	上部消化管	ERCP
超音波内視鏡	108件(穿刺生検6件)	内視鏡的粘膜下層剥離術	69件
ERCP	277件	食道静脈瘤治療	131件
小腸内視鏡	11件	緊急止血術	55件
カプセル内視鏡	14件	下部消化管	
		内視鏡的粘膜下層剥離術	8件
		内視鏡的粘膜切除・ポリペクトミー	228件
		緊急止血術	9件
		総胆管結石の採石	67件
		胆管ステント	53件
		膵内視鏡処置	6件

国際活動について



日本赤十字社が行っている国際活動には国際救援と開発協力があります。2011年に私は北イラク・クルド地域における戦傷外科実地研修に参加し紛争地域における実践的な戦傷外科患者の治療・看護を学びました。平和な日本ではみることがなかった銃弾に撃たれた兵士や、地雷で負傷した患者さん達、中にはその傷がもとで亡くなる人もいました。日本のようにたくさんの薬や物品がなく、文化も違う中での治療や看護に戸惑うことばかりでしたが、患者さんに少しでもよくなってほしいと思う心は同じで地元の医療スタッフとともに毎日がんばっていました。

また2013年3月から10月の半年間、フィリピンで開発協力活動に従事していました。事業地であるディラサグ郡は衛生環境、住民の衛生に対する知識などが不十分で、一番近い病院までも車で数時間かかるところでした。私は保健要員として、フィリピン赤十字のスタッフとともに地域の地域赤十字ボランティアに衛生に関する健康教育を行い、その後は彼ら自身で自分たちの村をよくしていくための活動

支援を行っていました。またそれだけではなく、台風や洪水が起きた時にはフィリピン赤十字スタッフと共にアセスメントや救援活動にも関わっていました。

これらの国際活動は皆様の温かいご理解・ご協力で成り立っており深く感謝しています。今後ともよろしくお願い致します。（看護係長 津田 香都）



診療科の紹介

整形外科

【スタッフ紹介】

- 青木 康彰 整形外科部長
(昭和54年卒／骨腫瘍 関節リウマチ)
- 田中 正道 リハビリテーション科部長
(昭和61年卒／脊髄・脊髄疾患の手術治療
とリハビリテーション)
- 阪上 彰彦 整形外科副部長
(平成3年卒／股関節)
- 松岡 孝志 整形外科副部長
(平成3年卒／脊椎疾患全般)
- 野村 幸嗣 整形外科副部長
(平成13年卒／関節リウマチ
関節外科(膝・足関節))
- 池上 大督 医師
(平成14年卒／脊椎外科 整形外科一般)
- 村田 洋一 医師
(平成16年卒／整形外科一般)
- 橋本 国彦 医師
(平成22年卒／整形外科一般)
- 山岸 亮 医師
(平成22年卒／整形外科一般)

診療実績

平成24年度手術件数	
脊椎 固定術	182件
椎弓形成、後方除圧、 椎間板摘出、その他	125件
股関節 人工関節置換術・ 再置換術	127件
大腿骨頸部骨折手術・ その他	17件
膝関節 人工関節置換術・ 再置換術	80件
関節鏡、その他	2件
腫瘍 悪性骨軟部腫瘍手術	23件
良性骨軟部腫瘍手術、 生検、その他	83件
骨折、手の外科手術、 足の外科手術、その他	52件
合計	691件



当科の診療方針

整形外科では、脊椎、股関節、膝関節、関節リウマチ(RA)、骨軟部腫瘍、転移性骨腫瘍、骨粗鬆症に対して専門的な治療を行っています。

脊椎：腰部脊柱管狭窄症、頸髄症などの手術を行っています。最近では高齢者の脊椎変形疾患も増えつつあります。

股関節：人工股関節全置換術を中心に手術を行っています。手術方法の改良により、皮膚切開も10cm～12cm程度で行い、脱臼もほとんどなくなっています。

膝関節：変形性膝関節症、RA等に、人工関節置換術による治療をしています。半月板損傷に対する関節鏡下手術も行いますが、靭帯再建術は行っていません。

足関節及び足趾：変形性足関節症、RAに、人工足関節置換術や関節固定術を行い、外反母趾やRAの足趾障害に対する手術も行っています。

RA：約330名のRA患者が通院治療を受けており、従来のDMARDs、MTXによる治療はもちろん、現在日本で認可されているすべての生物学的製剤による治療を外来通院で行っています。

骨軟部腫瘍：すべての骨軟部腫瘍に対する診断・治療を行っています。悪性骨軟部腫瘍に対しては化学療法、患肢温存手術(人工関節置換、凍結・加熱自家処理骨移植)などの最新治療を行っています。

転移性骨腫瘍：転移性骨腫瘍の診断・治療を行っています。症状のない患者に対するデノスマブ、ゾレドロン酸の投与、病的骨折に対する人工関節置換や髓内釘固定、脊椎転移に対する除圧・固定(脊椎全摘術を含む)などの手術も積極的に行っています。

骨粗鬆症：DXA、骨代謝マーカーを使い診断と治療を行っています。

地域の医療機関の先生へ

上記のように、当院では主に整形外科の慢性疾患の治療を行っております。通常の捻挫・骨折などの外傷、スポーツ障害、肩関節疾患、手の外科疾患については診ておりませんので、専門の病院へ紹介させていただいております。ご協力お願いします。

(整形外科部長 青木 康彰)

診療科の紹介

産婦人科

【スタッフ紹介】

赤松 信雄 副院長兼第一産婦人科部長
(昭和48年卒/超音波診断 婦人科腫瘍
周産期医療(産科))

小高 晃嗣 第二産婦人科部長
(昭和58年卒/婦人科腫瘍
周産期医療(産科))

水谷 靖司 第三産婦人科部長兼周産
期母子医療センター長
(昭和61年卒/周産期医療(産科)
手術(腹腔鏡、内視鏡手術
含む) 婦人科悪性腫瘍)

中山 朋子 医師
(平成15年卒/産婦人科一般)

岡崎 倫子 医師
(平成18年卒/産婦人科一般)

佐藤 麻夕子 医師
(平成20年卒/産婦人科一般)

西田 友美 医師
(平成21年卒/産婦人科一般)

江口 武志 医師
(平成22年卒/産婦人科一般)

柏原 麻子 医師
(平成23年卒/産婦人科一般)

診療実績

2012年度手術件数

- ①帝王切開 197件
- ②子宮附属器腫瘍摘出
115件(腹腔鏡下33件)
- ③子宮全摘 95件
- ④子宮頸部円錐切除 75件
- ⑤子宮悪性腫瘍手術 54件
- ⑥子宮筋腫摘出
44件(子宮鏡下14件)
- ⑦子宮附属器悪性腫瘍手術 33件



母体胎児集中治療室(MFICU)の開設

やっと、周産期母子医療センターにNICU,GCU,MFICU,陣痛・分娩室が揃いました。2001年の地域周産期母子医療センター認定から13年かかりましたが、設備と人員の整備が進み、MFICU加算も頂けるようになりました。決定から30分以内の児娩出など、質の高い診療ができるよう水谷靖司センター長以下、スタッフ一丸となっております。

産婦人科の診療状況

産婦人科専門医6名、専攻医3名のスタッフ9名体制です。入院治療例数の多い順に○数字で示しておりますが、やはり周産期(母体・胎児)領域が、当科で最も多い治療対象です。周産期・新生児医学会認定暫定指導医1名と研修医4名、母体保護法指定医師3名が中心となって診療しております。

- ①ローリスク・ミドルリスクの妊産褥婦、軽症の他科合併症を有する患者さんにも十分な指導で安心して分娩をご主人の立ち会いですて頂くよう努めております。
- ②ハイリスク妊産褥婦への治療と管理が、MFICUの開設でより安全に最良に医療・管理ができるようになりました。しかしながら、帝王切開となる症例が増加の一途をたどっております。

婦人科腫瘍領域では、婦人科腫瘍学会認定婦人科腫瘍専門医1名、日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医2名が中心となって診療しております。

- ③子宮筋腫、④卵巣嚢胞性腫瘍などの良性腫瘍の開腹手術、腹腔鏡下手術ともに増えており、特に子宮内膜症性嚢胞や成熟嚢胞性奇形腫などに対する腹腔鏡下手術が倍増しております。
- ⑥子宮体がん、⑦卵巣がん・卵管癌・腹膜原発癌、⑧子宮頸がんの手術・化学・放射線療法、緩和治療も増加しておりますが、上皮内癌、高度異形成の段階で発見され、根治手術をしなくてもよい(⑤子宮頸部円錐切除)症例が増えております。

診療の方針

ガイドラインに準拠した診療のアップデートと質の向上、朝夕2回のカンファレンスでの情報共有と診療の均てん化を図り、外来・病棟での診療に生かしています。

(第一産婦人科部長 赤松 信雄)

災害救護車輻を更新いたしました



赤十字の主たる事業である災害救護活動の実践のため、災害救護車輻が各赤十字病院に配備されており、この度12年ぶりに更新いたしました。

これまで使用していた2tベースの災害救護車輻は資機材と人員との両方を搬送目的としていたため少し大き目の車体でしたが、乗用ワゴンタイプに変更をし運転もしやすくなり、災害現場での巡回診療など小回りのきいた対応を行うことが出来ます。

災害が発生すれば、赤十字医療救護班や兵庫DMAT隊(災害派遣医療チーム)の派遣として使用し、資機材の運搬が必要な場合には、もう一台の専用トラックが同行し、災害現場へ向い対応することとなり、これまで以上に救護への体制が整いました。

(社会課長 大西 勝彦)

兵庫県南部ドクターヘリ運航開始

2013年11月30日より運航が開始されました。当院はヘリポートを有するため傷病者搬送先医療機関に選定され、ドクターヘリ受け入れ訓練を行いました。加古川医療センターの運航管理室から要請が入り、約15分後にドクターヘリが当院のヘリポートに到着し、傷病者を救急外来まで搬送するという訓練でした。

ドクターヘリの目的は、早期医療介入により傷病者の救命率向上と後遺症軽減を図ることです。具体的には、救急車で30分以上かかる救急搬送、高次医療機関への施設間搬送、災害時の広域搬送などが対象となります。運航は午前8時30分から日没30分前までの昼間有視界飛行で、運航範囲は原則として、播磨と丹波南部地域ですが、必要に応じその他へも出動します。

当院は今までも、防災ヘリによる神戸や岡山への施設間搬送や母体搬送受け入れの経験があり、今後はドクターヘリとも連携し、地域の救急医療、災害医療に貢献していきたいと思えます。

(救急部長 八井田 豊)



採用・退職

【採用医師】



氏名:小田 晋輔
(おだ しんすけ)
所属:病理診断科
職種:医師
採用年月日:平成25年10月1日
座右の銘・信念・モットー:
いつも標本に終始せず患者さんのことを考えていきたい。
【抱負・意気込み】
全身あらゆる臓器について一つでも多く学び、皆さまのお役に立ちたいと思えます。よろしくお願ひします。



氏名:江口 武志
(えぐち たけし)
所属:産婦人科
職種:医師
採用年月日:平成25年10月1日
座右の銘・信念・モットー:
形影相同
【抱負・意気込み】
患者さんの立場や気持ちを考えて最良の医療を提供できるように日々診療したいと思えます。



氏名:佐藤 麻夕子
(さとう まゆこ)
所属:産婦人科
職種:医師
採用年月日:平成25年10月1日
座右の銘・信念・モットー:
千射万箭
【抱負・意気込み】
一つずつ丁寧に対応したいと思えます。ご迷惑をおかけすると思えますが、よろしくお願ひ申し上げます。



氏名:山岸 亮
(やまぎし あきら)
所属:リハビリテーション科
職種:医師
採用年月日:平成25年10月1日
座右の銘・信念・モットー:
一期一会
【抱負・意気込み】
日々精進して患者さんのお役にたてるように頑張ります。

【退職医師】

(平成25年9月30日付)

外科
國府島 健

麻酔科
山本 さやか

産婦人科
長谷川 徹

リハビリテーション科
高橋 和孝

がん診療連携拠点病院研修会の様子

中播磨医療圏における地域がん診療連携拠点病院である当院は、平成21年にがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会を開催し、がん教育の地域の支援活動を開始しました。それ以後毎年、研修内容の充実を図り、参加対象も多職種へと拡大しています。講義と体験型学習を通して知識の提供だけでなく、研修後にはがん医療の大切さを再認識し、積極的に臨床の場で取り組めるよう、地域のがん医療の均てん化を目指す当院の医療従事者と事務職員が一丸となって開催しています。だからこそ、当院の研修に関心を持ち参加して下さる地域の先生方、医療従事者の方には感謝の気持ちでいっぱいです。一方、受講生の真摯な態度から私たち自身が学んだり、またエネルギーをもらっています。地域のがん医療の均てん化という課題達成は容易なことではありません。しかし、姫路赤十字病院はこれからも皆様に支えられながら、自分たちにできることを頑張っていければと考えています。

(がん看護専門看護師 看護師長 北山 さゆり)



▶平成25年度 姫路赤十字病院 研修会開催予定一覧

研修名	開催場所	対象者	定員	開催日程	締め切り
第20回地域連携カンファレンス(外科・眼科)	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	なし	平成25年5月16日(木) 17:30~19:00	開催終了
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	大会議室	医師、看護師、 薬剤師等	医師:24名 看護師、薬剤師等: 若干名	平成25年5月18日(土) 19日(日)	開催終了
がん化学療法セミナー	多目的ホール	臨床研修医、医師 薬剤師、看護師	なし ※申込み多数の場合はお断り する場合がございます	平成25年5月30日(木) 31日(金)	開催終了
ICLS西播磨 姫路赤十字病院コース	会議室	医師、看護師、 助産師	18名	平成25年6月13日(土)	開催終了
第11回新生児蘇生法講習会	多目的ホール	医師、看護師、 助産師	24名	平成25年6月29日(土)	開催終了
化学療法看護研修会	多目的ホール	看護師 ※がん化学療法セミナー を受講された方	看護師:20名程度	平成25年7月2日(火) 19日(金)	開催終了
第21回地域連携カンファレンス (放射線科・歯科口腔外科)	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	なし	平成25年9月19日(木) 17:30~19:00	開催終了
緩和ケアフォローアップ研修会	多目的ホール	医師、看護師、 薬剤師等	30名程度	平成25年9月29日(日)	開催終了
看護師緩和ケア研修会 (ベーシックコース)	多目的ホール	看護師	20名程度	平成25年10月2日(水)22日(火) 11月12日(火)	開催終了
第12回新生児蘇生法講習会	多目的ホール	医師、看護師、 助産師	24名	平成25年10月19日(土)	開催終了
ALSOプロバイダーコース	大会議室	医師、看護師、 助産師	25名	平成25年11月16日(土) 17日(日)	開催終了
第22回地域連携カンファレンス (産婦人科・麻酔科)	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	なし	平成25年12月19日(木) 17:30~19:00	開催終了
看護師緩和ケア研修会 (アドバンスコース)	臨床研修棟 セミナールーム	看護師 ※ベーシックコースを 受講された方	ベーシックコース 受講者の中から希望 される方	平成26年2月4日(火) 18日(火)25日(火)	受付終了
放射線治療に関する研修会	多目的ホール	医師、放射線技師、 看護師等	なし ※申込み多数の場合はお断り する場合がございます	平成25年11月7日(木)	開催終了
がんの早期発見に関する 研修会(超音波実技講習会)	多目的ホール	医師、 臨床検査技師	30名程度	平成26年2月20日(木)	2月14日
第23回地域連携カンファレンス (皮膚科・循環器内科)	多目的ホール	医師、看護師 コメディカル等 医療関係者	なし	平成26年3月13日(木) 17:30~19:00	

姫路赤十字病院の理念と基本方針

理念

『わたしたちは、医の倫理と人道・博愛の赤十字精神に基づき、心のかよう安全で良質な医療を実践します。』

基本方針

1. 患者中心の医療
患者の人権と意思を尊重し、説明と同意により患者とともにチーム医療を推進します。
2. 災害医療の充実
国内外の災害救護活動に積極的に取り組みます。
3. 地域との連携
地域と連携し、高度専門医療・急性期医療・救急医療をとおして、地域中核病院の責任を果たします。
4. 優れた医療人の育成
人間性豊かな医療人を育て、教育・研修・研究の推進により、医療水準の向上に努めます。
5. 魅力ある職場づくり
職員の働きやすい環境づくりに努め、誇りある職場を創ります。
6. 健全経営
健全経営を持続し、医療活動を通じて社会に貢献します。

患者さんの権利と責務

患者さんの権利を尊重します。

1. 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
2. 十分な説明と情報提供を受けることができます。
3. 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
4. 自分の意思で、治療方針を自由に選択・決定することができます。
5. 自己の診療情報の開示を求めることができます。
6. 個人情報やプライバシーの保護を受けることができます。

患者さんには安全で良質な医療を受けるために守っていただくことがあります。

1. 患者さんの健康に関する情報を正確に提供してください。
2. 診療内容を十分理解し、納得した上で医療を受けてください。
3. すべての患者さんが適切な治療を受けられるよう、病院の規則や指示を守ってください。

■ 編集後記

明けましておめでとうございます。2014年最初の姫路赤十字病院だよりをお届けしました。リニューアル後の3号目となりますが、目を通していただきありがとうございます。当院では地域医療支援病院としての役割強化に向けた取り組みを進めています。今後も姫路赤十字病院だよりを通じて少しずつ病院の内容を紹介させて頂き、地域の先生方との更なる連携に貢献できればと願っています。引き続き本年もどうぞ宜しくお願い致します。

(第一小児科副部長 高橋 宏暢)

